

2月号
vol.50

大野のまちを横から見る

月刊の〜の〜

班
回
覧

大野の冬 乗り物ある？
君

月刊の〜の〜

2025年度活動報告

大野のまちに今年も雪の季節が到来。
今年は何れだけ降るのだろうか、大
野のまちになるとソワソワします。大
野のまちに暮らす人も、市外から移
住している人も、それぞれの方法で大
野のまちを愛する。ワイン



月刊の～の～

自己紹介

月刊の～の～になるまで(3年間の「横町通信」時代)

2021



担当：三浦

2023



担当：川口

2024



担当：木村

月刊の～の～リニューアルの背景



横町編集部の
活動エリアが拡大。
試験的に**班回覧を実施**



班回覧の**反響あり!**
横町通信をきっかけに
スタジオを訪れる人も



本格リニューアルで、
横町だけでなく
大野を広く取り上げる
誌面にするのはどうか？

月刊の～の～ リニューアルで変えたこと(名前・コンセプト以外)

1 印刷方法

印刷通販
プリントバンク



2 配布先

日吉町1区



〈上記に追加〉

大野地区(班回覧)

VIO、そのほか関連施設や自治会

※市内各公民館 / 図書館 予定

3 作り手



まちづくりに
関わりたい

地域の担い手

「のーのー」=大野の方言

大野の方言で「ねーねー」の意味。
いろいろな人・場所・ものに「のーのー」と
話しかけていく意味を込めました

月刊の～の～ コンセプト

大野のまちを横から見る

これまで横町スタジオで
住民と活動する中で得られた
横町編集部の基本姿勢を引き継ぎました

月刊の～の～ 横町通信からの転換ポイント

読む人が

作る人にもなれる

月刊の～の～ 横町通信からの転換ポイント

横町スタジオの活動を地域へ発信



地域の魅力と

地域の担い手の発掘

月刊の～の～

2025年度に新たにやってみたこと

**大野に住む人と一緒に
題字を制作 & 決定**

月刊の～の～ やったことその1



2025.1.14 手仕事の日より

月刊の～の～
月刊の～の～
月刊の～の～

福井工業大学に通う **玉木だいちさん**
引き継ぎを経て、3つの案を制作

月刊の～の～ やったことその1



近所の方、横町編集部と一緒に活動している人、
その他市内の知人や友人に声をかけ、投票を実施(オンライン票も受付)

横町以外の題材の取材

他企画との連携

月刊の～の～ やったことその3

班回覧

大野のまちを傾から見る

月刊の～の～

2025
9月号
vol.45



インタースタudentが横町盆踊りの歴史と地域の声を徹底調査！

横町盆踊りの歴史をたどるべく、大野市街の中心部を歩いた。盆踊りの囃子が、夜の街を照らす。盆踊りの囃子が、夜の街を照らす。盆踊りの囃子が、夜の街を照らす。

盆踊りの囃子が、夜の街を照らす。盆踊りの囃子が、夜の街を照らす。盆踊りの囃子が、夜の街を照らす。

横町盆踊りアンケート調査！

Q1. 世代を教えてください！

1位 10・20代 18人
2位 30・40代 14人
3位 50・60代 13人

Q2. どこに住んでいますか？


1位 大野市 28人
2位 福原町内(大野以外) 11人
2位 県外 11人

Q3. 横町盆踊りの参加は何回目ですか？

1位 初めての参加 23人
2位 2-4回 20人
3位 5回以上 8人

Q4. どの盆踊りが好きですか？

1位 大野音頭 29人
2位 しーちゃん音頭 10人
3位 神楽まじり 4人



総評 今回のアンケートでは、大野市に在住する学生を中心に、盆踊りに関心がある学生が非常に多いことが分かった。特に、大野音頭が最も人気があることが確認された。また、盆踊りに参加している学生も少なくないことが分かった。盆踊りに関心がある学生は、大野市だけでなく、福原町内や県外からも参加していることが分かった。盆踊りに関心がある学生は、大野市だけでなく、福原町内や県外からも参加していることが分かった。

月刊の～の～

雪国インターンとの連携

市外から大野にきた
学生ならではの視点で、
横町盆踊りを紹介

専用SNSを開設

月刊の～の～ やったことその4



主な目的

- ・メディアの認知拡大
- ・大野市外の人への情報発信
- ・紙面と違うコンテンツの発信
- ・アンケートの収集

月刊の～の～

今年度の活動を振り返って

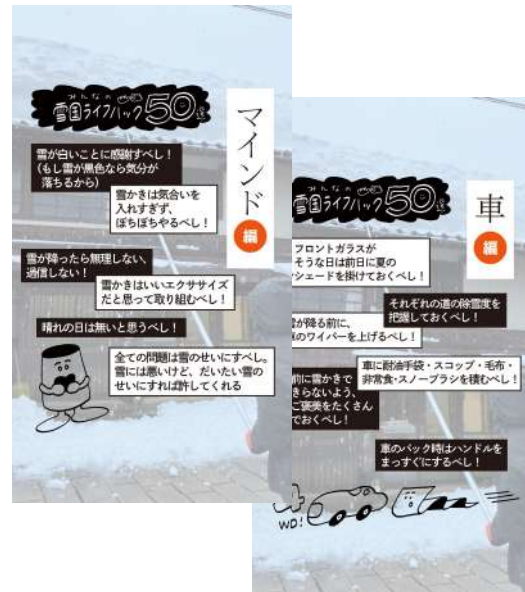
月刊の～の～ 良かったこと・継続したいこと



横町編集部やみなとの
日々の活動が
関わる人を増やした



年間冊子が、初めてスタジオを
訪れた人に活動紹介をする
媒体として機能した



SNSで実施した
アンケートを通じて 市外の人
の目に触れる機会を作れた

月刊の～の～ 難しかったこと・直面している課題



外部への取材の数

- ・月1発刊のスピード感
- ・現場の生の声を拾いたい
- ・ネタを集める仕組みづくり



企画そのものの面白さ

- ・「のーのーといえばこれ！」
のような、他媒体にはない
特徴的な企画作り



紙面に関わる人の人数

- ・関わりしろの開拓
- ・新しい人と出会う
機会づくり

月刊の～の～

これからのこと

月刊の〜の〜 これからのこと

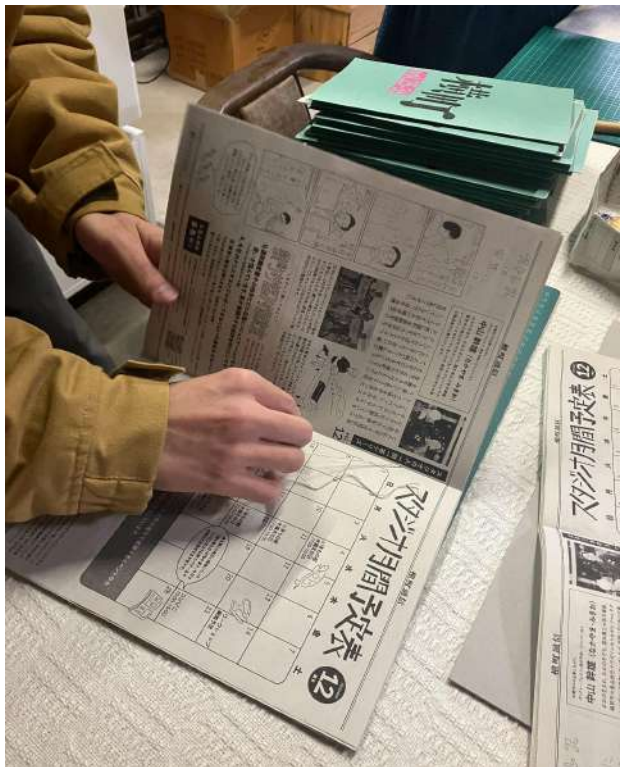


2026年2月28日(土)~3月1日(日)

の〜の〜びらき開催！

- ・2026年度の題字選挙
- ・今年度のおたよりを 1冊の本に製本
- ・大野のネタ集め
- ・オリジナルグッズ販売+ミニ WS

月刊の～の～ これからのこと



今後挑戦したいこと！

地域の企業や個人が
関わりながらメディアを運営

- ・製本や4コマ漫画など、
自主的なワークショップの企画
- ・オリジナルグッズの制作・販売

月刊の～の～ 大学連携への希望など

・**大学生**の滞在・リサーチとの連携

(市内と市外の視点が交差することが、この媒体の特徴に?)

・**ものづくり**に関する

企画・ワークショップの継続開催

(新しい担い手・関わり手と出会う場として)



ご清聴ありがとうございました！